



1 展覧会の主催者：LES26 板橋ポール組

2 活動主旨、特徴

フランス人アーティスト「ポール・コックス」氏を中心に、板橋区立美術館の絵本講座で集結した集団。

参加メンバーは絵本作家、イラストレーター、デザイナー、CMプランナー、教師、他。在住地も日本、フランス、モロッコ、ドイツと分かれている。

活動範囲の異なる作家達が、テーマを共有して課題を出し合ったり、または一つの課題の下で、「偶然性」と「集団力」を生かし、共同制作・作品発表を行なう。上記活動を通じ人と交わることの喜び、発見、驚きを人々に伝えコミュニケーションについて考える。

年に一度のペースで展覧会、ワークショップを開催している。

3 2009年展覧会の名称：2009 EXHIBITION「knock knock」

4 開催日時：2009年 8月4日～9日（6日間）

5 開催場所：IID Gallery（世田谷ものづくり学校内）



廃校になった学校施設をリノベーションして、デザインやものづくりを「核」とした新しいコミュニケーション施設。

さまざまな分野のクリエイターに教室を開放し、ワーキングスペースとして機能しているため、私達の実験的な創作活動の発表の場としてふさわしいと思っている。

昨夏の2008年展覧会「EXHIBITION "Number"」も同所で開いた。

正式名称は「IKEJIRI INSTITUTE OF DESIGN：世田谷ものづくり学校」。

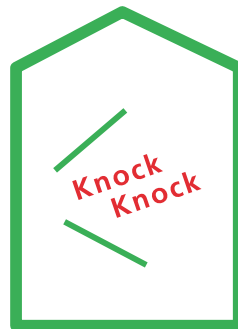
6 展覧会のテーマ：町、家

展覧会場を私達の住む「町」と考え、その町を構成する建物を造って設置する。

一軒家やマンション、会社ビル、お店、美術館、図書館、動物園、映画館など様々な建物を、作家の普段からの制作手法で立体的に作りあげる。

多様性あふれる建物が隣り合うことによって、他のどこにもない不思議な「町」ができあがる。

来場者は色々な建物を訪ねて触ったり、覗いたり、動かしたりできます。



7 展覧会の内容：作品総数 14 タイトル（予定）

「町」を構成する「建物」を14タイトル展示予定。

各作家は建物や、建物に見立てた作品を制作する。

各自の建物が集まることによって一つの大きな町を構成する。

作家たちが自由な発想で制作した「建物」が共存することで「偶発力」が発揮され、それらが集まったときにひとつの町として「集団力」が見出される。

例1：壁をめくると家の外見が変わる、絵本のような一軒家。

例2：映画館の外見で中を覗くと、スクリーンには作家の絵画やイラストが映されている。

例3：箱たちが高層マンションのように並べられている。箱のドアを開けるとユーモラスなプライベート空間を見る事ができる。

8 当団体のメンバー



ポール・コックス (Paul COX)

1959年パリに生まれる。

画家、グラフィックデザイナー、絵本作家。

近年では、パリの国立近代美術館（ポンピドーセンター）で来場者参加型の展示やオペラやバレエの舞台装飾も手がける。パリとブルゴーニュに住み、ロバとラバと暮らしている。

2009年参加者

石川 志保	(絵本作家、CMプランナー、グラフィックデザイナー)
上野 遙	(イラストレーター)
岡村 志満子	(絵本作家、グラフィックデザイナー、イラストレーター)
オダイツミ	(イラストレーター)
渋谷 純子	(グラフィックデザイナー、絵本作家、雑誌ライター)
清水 茉莉	(デザイナー)
張 連秀	(イラストレーター、絵本作家)
鳥居 千夏	(グラフィックデザイナー)
長岡 綾子	(デザイナー)
前川 明子	(グラフィックデザイナー)
山本 茂康	(グラフィックデザイナー)
吉田 恭子	(画家・イラストレーター)
ヨツモト ユキ	(エディトリアルデザイナー)

9 当団体のWEB <http://les26.web.fc2.com/>